

# 沖縄県栽培漁業センターの概要

## 1. 沿革

- (1) 昭和55年～58年度 用地取得及び基本整備事業
- (2) 昭和58年4月 沖縄県水産試験場の支場として設置される（沖縄県行政組織規則第208条。昭和58年3月31日改正。組織の名称：沖縄県水産試験場支場栽培漁業センター）。
- (3) 昭和58年10月25日 開所式
- (4) 昭和59年度・昭和61年度・昭和62年度 増強施設整備事業（水槽上屋・加温施設・濾過施設等の整備）
- (5) 昭和63年4月 水産試験場支場の位置づけから独立。組織の名称：沖縄県栽培漁業センターとなる（沖縄県行政組織規則第208条の2。昭和63年3月31日改正）。

## 2. 組織

沖縄県農林水産部———水産振興課———栽培漁業センター

## 3. 庁舎の所在地

住 所：〒905-02 沖縄県国頭郡本部町字大浜 8 5 3 - 1  
電 話 番 号：(0980) 47-5411 F A X 番 号：(0980) 47-5412  
最寄バス停：本部半島線（名護バスターミナル発）大小堀バス停下車徒歩3分

## 4. 運営方式

県 営

## 5. 職員及び主な担当業務

所 長 金 城 盛 徳 （総 括）  
主任研究員 大 城 信 弘 （貝類種苗生産、棘皮類種苗生産）  
主任研究員 勝 俣 亜 生 （魚類種苗生産、餌料生物培養）  
研 究 員 佐 多 忠 夫 （甲殻類種苗生産、タワガザミ放流技術開発）  
研 究 員 久 保 弘 文 （餌料生物培養、魚類種苗生産）  
研 究 員 仲 盛 淳 （棘皮類種苗生産、甲殻類種苗生産）  
研 究 員 福 田 将 数 （甲殻類種苗生産）  
技術補佐員 仲 村 伸 次 （魚類種苗生産、餌料生物培養）  
副 主 査 石 川 慶 子 （庶務、会計）

※転 入：金 城 盛 徳（水産業改良普及所）、佐 多 忠 夫（水産試験場）  
転 出：新 垣 盛 敬（水産試験場）、与那嶺 盛 次（水産試験場）  
木 村 基 文（水産試験場）  
※新採用：福 田 将 数

## 6. 受け入れ研修生名簿

氏名	国名	期間	所属	研修内容
ISMET JEHANGEER	MAURITIAN	H7. 3. 31~H7. 4. 25	Divisional Scientific Officer	熱帯海面養殖
高橋 正和	日本	H7. 10. 13~H7. 12. 13	青年海外協力隊 (派遣前研修)	貝類種苗生産
岡本 久美子	日本	H7. 10. 13~H7. 12. 13	"	"
西田 和夫	日本	H8. 3. 16~H9. 4. 5	"	"

## 7. 種苗生産実績

(1) 対象魚種：ハマフエフキ・オーストラリアキチヌ・マダイ・シマアジ・タイワンガザミ・シラヒゲウニ  
タカセガイ・ヤコウガイ

(2) 魚種別、年次別種苗生産実績

魚種別	年次		備考
	平成 7 年度		
ハマフエフキ	285.5 (23.5)		上段：千尾 下段：ミリ ( ) 内
オーストラリアキチヌ	0		
マダイ	681 (23.1)		-：実施せず +：少数生産 0：生産出来ず
シマアジ	-		
タイワンガザミ	1.047 (3~8)		
シラヒゲウニ	140 (3.0)		
タカセガイ	428 (5.0)		
ヤコウガイ	-		

(3) 種苗販売実績

平成 6 年度			
マダイ	ハマフエフキ		
5円/尾	3,337,500	8円/尾	1,960,000
35円/尾	472,500	38円/尾	1,539,000
	3,810,000		3,499,000
		合計金額	7,309,000

## 8. 予算 (令達)

単位：千円

区分	年度	平成 7 年度	備考
運営費		2,698	
生産事業費		39,811	
栽培漁業技術開発事業費		4,500	(事業名)
沿岸漁業整備事業等調査費		4,346	放流技術開発
合計		51,355	

## 9. 施設の概要

(1) 敷地等

	基本施設	増強施設	その他	備考
敷地面積	11,067m <sup>2</sup>			県有地
使用海面	0m <sup>2</sup>		5,200m <sup>2</sup>	生簀40面

(2) 建設事業費

単位：千円

	基本施設整備	増強施設整備	その他	備考
敷地取得費	169,000	0	0	
設備整備費	456,225	150,000	0	
環境整備費	0	0	0	
合計	625,225	150,000	0	
(国庫補助金)	(243,750)	(75,000)		

## (3) 建物

施設名	規模・構造	面積(m <sup>2</sup> )	備考	施設番号
管理棟	鉄筋コンクリート 2階建	396		①
採苗棟	" 平屋建	252.4		②
調餌工作棟	" "	194.8	上屋貯水タンク	③
機械棟	" "	84		④
ポンプ棟	" "	36		⑤
車庫	" "	60		⑥
飼育棟	鉄筋スレート、コンクリート水槽	774	加温装置付水槽	⑦
濾過棟	FRP 自動逆洗式	6.72	42t/h・2基	⑧
貝類採苗施設(1)	軽量鉄骨ビニールハウス 平屋建	225		⑨
貝類採苗施設(2)	" "	225		⑩
網倉庫	鉄筋コンクリート "	78.15	平成5年度増設	⑪

## (4) 池・水槽

## ① 容量総括表

飼育水槽 (m <sup>3</sup> )					餌料培養水槽 (m <sup>3</sup> )			合計
魚類	甲殻類	貝類	ウニ類	計	動物性	植物性	計	
400	258	82.5	128	868.5	450	690	1,140	2,008.5

## ② 用途別

用途区分	規格・使用容量 (m <sup>3</sup> )	数量 (面)		備考	施設番号
親魚水槽	RC φ4.0m×2.5m	30	5	魚類	⑫
	FRP 5.0m×1.2m×0.85m	4	2	甲殻類	⑬
	RC 4.0m×7.0m×2.0m	50	5	魚類	⑭
	RC φ7.0m×1.3m	50	2	"	⑮
	RC φ10.0m×1.3m	100	2	甲殻類	⑯
飼育水槽	RC φ7.0m×1.3m	50	1	"	⑰
	FRP 5.0m×1.0m×0.55m	2.75	30	貝類	⑱/⑩
	RC 8.0m×1.0m×1.0m	8	3	ウニ類	⑲
	FRP 5.0m×1.5m×0.9m	6	4	"	⑳
	FRP 5.0m×1.2m×0.85m	4	20	"	㉑
	RC 4.0m×7.0m×2.0m	50	5	動物性	㉒
	RC 4.0m×2.0m×1.5m	10	5	"	㉓
餌料培養水槽	RC φ7.0m×1.3m	50	1	"	㉔
	RC 10.0m×7.0m×2.0m	100	6	植物性	㉕
	キャンパス φ10.0m×1.0m	70	1	"	㉖
	キャンパス 4.0m×5.0m×1.0m	20	1	"	㉗

## (5) 機械・設備

機械・設備	型式・能力	数量	備考	施設番号
ポンプ	渦巻ポンプ 11KW 2.24m <sup>3</sup> /分(全揚程20.8m)	3		
ブローワー	アンレットルーツブローワー ① 11KW, 6.0/m <sup>3</sup> 分, 0.6kg/cm <sup>2</sup> ② 3KW, 1.15/m <sup>3</sup> 分, 0.6kg/cm <sup>2</sup>	4 (3) (1)		
ジェット・ウォッシャー	11KW, 60.0kg/cm <sup>2</sup> , 0.6 /分	1		
発電機	100KVA	1		
冷凍・冷蔵庫	冷凍 7.5KW (-35℃) 26m <sup>3</sup> 冷蔵 2.2KW (-10℃) 19m <sup>3</sup>	1 1		
ボイラ	400,000Kcal/h, 7.5KWポンプ 2基	1		22
自動給餌機	0.045KW, 6ℓ/tank	14		
自動底掃除機	0.4KW, 最大排水量 50ℓ/分	2		
自動洗網機	1.3KW, 10m角/60分 120ℓ/分	1		23
ワムシ収穫機	100V-0.2KW	2		

## (6) その他の設備

名称	規格等	数量	備考	施設番号
作業船	FRP 1.10トン 50馬力	1	小割生簀	
ククリフト	FRP 0.30トン 9馬力	1	40面は	
作業車	2トン ディーゼル	1	平成5年度	
小割生簀	貨物車 2トン ガソリン	1	増設。セン	
沈澱池	5m×5m	40	ター地先中	24
取水管	素堀り石積み 375m <sup>2</sup>	1	間育成場	25
栈橋	ヒューム管 φ1.0m×93m	1		26
貨客兼用自動車	鉄筋コンクリート 斜路4.1m, 長さ4.9m	1		27
	1,800cc ガソリン	1		

## (7) その他関連事項

## ① 海水揚水量

日間揚水量 5,000 m<sup>3</sup>/日(盛期)日間揚水量 9,700 m<sup>3</sup>/日(最大能力) 但し、全基を24時間連続運転の場合の数値

## ② 契約電力

契約容量 72KW/H

契約種別 業務用

## (8) 施設の配置図

次頁に示した。

